



ミズバショウ (サトイモ科)

芝谷地の水が水田の灌漑用水として多くのたんぼを潤していたころは、その水路にミズバショウ、ミツガシワがたくさん生えていたものでした。

今はどちらも数本と寂しいかぎりです。

純白の大きな苞（花の基部に付く葉のようなもの）に包まれた、たんぼ状の淡緑色の花は明るく美しく、湿原の妖精などと呼ばれています。

ミズバショウはザゼンソウとともに北半球のサトイモ科の代表種ですが、ザゼンソウは少し乾いたところでも成育しますが、ミズバショウは浅水の流れを欲しがります。

花の後、葉が芭蕉のように大きくなることから水芭蕉の名。

文・菅原キサ 写真・山田政一

編集後記

□最近、あいさつのできない人が多くなつたような気がします。特にそう感じるのが間違いない電話の際です。ひどいときには夜遅くかかって来るものもあるのですが、「間違いました。すみません」という言葉を聞くことがありません。「ありがとうございます」「すみません」と言える人間になりたいものです。

□桜の開花も間に合い、天候に恵まれた今年のゴールデンウィーク。職場、家族連れで観桜会や行楽にと十分楽しめたのではないでしょう。ちよつと名の知れた観光地は、目的地に着く前に疲れてしまうほどの混雑。だからといって観光客がだれもない観光地も寂しいものでしょうね。

□どんなに親しい間柄でも、相手を傷つけたら謝り、許し、そして反省する素直さを大切にしたいものです。開き直って意地を通すような人間は惨めだと思えます。だれもが内面に持つ「罪」を責めず、慰め合える人間になりたい、最近、そんなことを考えています。

(ゆ)

広報おおだて 平成8年5月16日号(No653)

発行/大館市 〒017秋田県大館市字中城20番地

☎0186-49-3111

編集/総務部総務課広報広聴係(内線258)

広報おおだては再生紙を使用しています。